

妊婦健康診査における HTLV-1 抗体検査の実施状況調査
結果概要

【調査内容】

1 調査目的

平成 26 年度の県内における妊婦の HTLV-1 感染の状況を把握し、キャリア等への相談体制等の整備及び地域における感染対策の推進のための基礎資料とする。

2 調査方法

県内産科医療機関（分娩取扱施設 35 施設）を対象に、調査票を郵送により送付。記入式。

3 調査期間

平成 27 年 8 月 1 日～8 月 24 日

4 調査項目

コホート研究の認知状況、スクリーニング検査及び確認検査の実施、陽性及び判定保留妊婦数及び対応等 8 項目

（本調査は、県産婦人科医会の御協力のもと、平成 23 年度から継続実施。）

【調査結果概要】

- 回収率 100%（35 施設）
- コホート研究の登録事業については、8 施設が「知らない」と回答。
また、県内の研究協力施設について、9 施設が「知らない」、キャリア外来は、10 施設が「知らない」との回答があった。
- 県内の妊婦健康診査（1 回目）を受診した妊婦は 8,844 人であり、スクリーニング検査陽性妊婦は 33 名（0.37%）であった。
- スクリーニング検査陽性者に対し、確認検査を実施している施設は協力病院以外では 8 施設あった。
- 確認検査を実施した施設で、陽性者は 16 人、判定保留は 3 人（計 19 人）であり、妊婦健康診査（スクリーニング検査）における陽性率（判定保留含む）は、0.21%であった。
- 協力病院において「他の産科医療機関から紹介され、確認検査を実施した施設」は 0 件であった。
- 「協力病院に紹介せず、自院で分娩を対応」及び「一時協力病院に紹介し、分娩は自院」と回答した協力病院以外の施設は、7 施設あり、その理由として、「経産婦でこれまでに協力病院から指導済」「患者の希望」「協力病院までの通院が困難」「判定保留のため紹介しなかった」等の回答があった。
また、「児の抗体検査については、特に指導なし」「小児科がないため児のフォローをしていない」との回答も 2 施設からあった。
- 新生児の栄養方法としては（複数回答）、完全人工栄養が最も多かった。